

## 令和5年度 第1回甲府市食育推進計画協議会 議事録

1 日 時:令和5年6月26日(月)午後7:00～午後8:30

場 所:甲府市役所本庁舎6階大会議室

2 出席委員:14名

浅川委員、江頭委員、遠藤委員、古閑委員、志田委員、集堂委員、高野委員、  
武井委員、中澤委員、平井委員、深沢委員、藤巻委員、望月委員、山縣委員  
(50音順)

3 欠席委員:2名

數野委員、服部委員(50音順)

4 傍聴

0名

5 議事

- (1) 第3次甲府市食育推進計画の事業の進捗状況について
- (2) 第3次甲府市食育推進計画「重点的な取組」について
- (3) 第4次食育推進計画の策定について
- (4) 第4次食育推進計画アンケート(案)について

### ■議事内容

(1) 第3次甲府市食育推進計画の事業の進捗状況について

議 長:議事1「第3次甲府市食育推進計画の事業の進捗状況について」事務局より説明をお願いいたします。

《事務局説明》

議 長:第3次食育推進計画の事業の進捗状況等に関して、ご質問ございますか。

《質問なし》

(2) 第3次甲府市食育推進計画「重点的な取組」について

議 長:議事2「第3次甲府市食育推進計画「重点的な取組」について」事務局より説明をお願いします。

《事務局説明》

議 長:第3次甲府市食育推進計画「重点的な取組」について、ご質問ございますか。

《質問なし》

議 長:委員の方から、重点的な取組に関連する状況等をうかがいたと思います。

委 員:小学校給食では、給食の時間に栄養教諭や栄養職員の方が各教室を回り、食材の旬や児童の身体づくりなど、食に関する取組みを進めています。また、子どもたちも各学校の委員会等で、子どもたち同士でも伝え合っています。そのほか、毎月、食に関するおたよりを作り、家庭にも情報提供を行っています。小中学校ではこのような取組みを行っています。

議長:ありがとうございました。

(3)第4次食育推進計画の策定について

議長:議事3「第4次食育推進計画の策定について」事務局より説明をお願いします。

《事務局説明》

議長:次期食育推進計画の策定スケジュールについて、事務局からの説明が終わりました。ご質問ございますか。

《質問なし》

(4)第4次食育推進計画アンケート(案)について

議長:議事4「第4次食育推進計画アンケート(案)について」事務局より説明をお願いします

《事務局説明》

議長:第4次食育推進計画アンケート(案)について、ご意見、ご質問等ございますか。

委員:特に問題はないと思っています。2点質問です。まず、調査の対象で、一般の方16歳以上で3,500の内、年代により回収率が異なるので、回収率が少ない年代は配付数を多くして数を確保しているという意味でしょうか。

事務局:はい。そのように考えております。

委員:それは大切なことだと思います。

2点目は、これはコメントです。健康日本21の第三次が来年度から始まりますが、その指標と比較できることが大切だと思っております。今回、かなり合わせられたのかなと思ひ、よかったと思っています。

もうひとつ、高齢者の痩せについて、BMIはどのように測定しますか。

事務局:甲府市で実施している健診、人間ドックを受診された方の結果から割合を出しています。

委員:国では、今回かなり改善されている中、甲府市はあまり変わっていないようです。測定の方法の違いなのか、確認が必要だと思います。

事務局:ありがとうございます。確認してまいります。

議長:ほかにご意見等ございますか。

委員:アンケートについては、特に問題はありません。

味覚教育についてお話をさせていただきます。甲府市独自の取組みで、ほかの自治体ではおそらくまだないはずで。

平成22年度から市歯科医師会が栄養教育にプラス五感を意識した教育を展開することが必要だと考え、10年間取り組んでいます。行政と一緒に話をしながら、だんだんと展開が広がっています。最初は幼稚園、その後小学校でモデル事業等を実施しました。要望が増える中、担い手の確保が必要となり、歯科医だけでは難しいので、歯科衛生士を養成、それでも人手が足りなくなってしまう、昨年度からは、食生活改善推進員さんに研修を受講していただいています。フランスのように小学校で事業を展開していきたいのですが、難しい面もありますので、児童を対象としては、放課後児童クラブで展開させてもらっています。今回のアンケート項目に入れていただいで、感慨深いです。

甲府市の高齢者のHbA1c値5.5以上が70%とか80%とかいう話を聞いています。小さい頃から食に関し教えていき、生活習慣としてしっかり定着させるしか方法はないものといつも思っています。

コロナ禍で中止となっていた啓発活動、「口からはじめる健康フェスタ兼食育推進フェスタ」を、多くの職種の方にお手伝いいただき、6月に開催しました。次年度はもっと多くの方に参加していただきたいと思っています。

議長:ありがとうございました。小学生向けのアンケートで、もしご意見、質問などありましたらお願いします。

委員:いろいろな家庭がある中で、一概には言えないかもしれませんが、子どもたちにとって、食のこと、そして自分を振り返るという意味ではとてもいいのではないかと思います。

議長:ありがとうございました。幼児保護者向けのアンケートはいかがでしょう。

委員:一か所、変えていただけたらなというところがあります。「お子様は今までに農作業などを体験したことがありますか。」は、家庭だけなのか、保育園や幼稚園も含めてなのか分かりにくいと思います。これは含めてよろしいですか。園では、どこも実施していると思いますので、そこを記載していただければわかりやすいと思います。

議長:ありがとうございました。事務局での検討をお願いします。

委員の皆様からご意見をいただきたいと思ひます。

委員:質問の内容は、確認したい内容となっており、いいと思ひます。

議長:ありがとうございました。アンケートの内容に関しましてよろしいでしょうか。

委員:小中学生、幼児保護者用に好き嫌いがあるかという質問があります。好き嫌いがなく食

べられるようになることが大切であると思う一方で、好き嫌いがあることにに関して学校や保育所・幼稚園、各家庭ではどのような取組みがされているのか、どのような考え方なのかということについて基本的なことを教えて欲しいなと思いました。

議長: 今のご意見について、給食時間の取組みはいかがでしょうか。

委員: やはり時代ということもあり、子どもたちに、好き嫌いに関しては強くは指導できないのが実情です。ただし、体のことなどを考えると、「食べられるだけ」とか「今日はこのくらいにしようね」というように、低学年の頃は、先生方が声をかけているところですが、一方で、そのことが原因で不登校になることもあるので、慎重に指導しています。

委員: 好き嫌いこそ重要だと思っていて、どうすればいろいろな食材をおいしく食べられるかということをも味覚教育では行っています。甲府市の取組内容は、YouTubeで公開しています。「味覚教育」、「甲府市歯科医師会」で検索してください。

議長: ありがとうございます。子どもの健康についての現状や次期計画に反映するアンケートについて、いかがでしょうか。

委員: よく噛んで食べるとか朝食を欠食しないことが、肥満対策につながることをよく聞いていることと思うので、この10年間、歯科医師会がやられてきたことが反映されているのかなと思います。また、好き嫌いですが小学校ではもう遅いのかなと思います。親が嫌いなものでも子どもに食べさせるのかということを見ると、動画を親に見せなければならぬと思います。

委員: 好き嫌いについては、全部が全部食べられるかということ、多分皆様もそうでしょうけれど、好きなものもあればある程度好きでないものもあると思います。野菜が全部食べられないということであれば何とかしなければならぬが、野菜一つだけ何か食べられないということであれば、心のストレスにもなるので、そこまで無理して食べさせる必要はなく、栄養的にもほかのもので補えればよいと思います。

先ほどの、親の話ですが、入院の際に子どもを連れてきて「うちは野菜は食べさせていないので」と自信を持って言っている方がいました。そういう考え方の親がいると、子どもが全然経験できなく、その結果、初めて食べるもの、苦みがあるものは完全に拒否という状況になってしまいます。基本的に、親が嫌いなものでも、お子さんのために作っていただくとか、売っているもので子どもたちに経験させてあげるということをしていただくことが、小さい時からの嫌いなものを少しでもなくし、いろいろなものを経験させることになるのではないかと思います。

議長: ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

委員: 好き嫌いの件ですが、青果物の卸をやっている上で、極端な販売になっているのも事実です。皆様が手に取りやすいものを比較的量が売れるので扱っています。そこに課題があり、また、若干テーマがそれますが、我々は、旬のものや、山梨県の産物をもっともっと前面に出し、売っていきたいと思っています。

我々が現場で食べるトマトは、昔に比べ臭みが非常に少なくなってきました。ピーマンも、昔は、苦手な方は、料理にピーマンが入っているとすぐにわかりましたが、そういうものは、最近では、非常に少なくなってきましたし、様々な生産の過程の中で品種改良をしていますのでいろいろ食べやすくなっていると思います。ただし、昔ながらの野菜と比べると、少し味気なさを感じる部分はありますけれども、バランス良い食事というものを我々ももう少し提言できるような形にしていきたいと思っています。

議長: 味覚教育につながる内容、ありがとうございます。アンケートのこと、若しくは、現在の取組みについて教えていただければと思います。

委員: 食に関して子どもたちに、これも食べなさい、あれも食べなさいと強制することが難しい状況だとお聞きしましたが、小さい時から味覚に関しての教育をしていくことが、おいしく食べるとはどういうことかを知るためには大事になると思います。アンケートを通じて、親御さんも一般の方も考える機会が与えられると思いますのでとてもよいと思います。

委員: 感想ですが、回収率を上げるということもアンケートとしては非常に大切だと思いますので、今回見直されて、質問数を少なくされたことは非常に良いと思います。いずれの項目も重要でなかなか捨てがたい所もあるかと思いますが、今後も答えやすいような、項目を絞ったアンケートをぜひ引き続きご配慮いただければと思います。

議長: ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

委員: アンケートは項目も非常によく考えられていて素晴らしいと思います。

私は10年以上前から味覚教育のインストラクターとして、小さい子から大人まで東京の方で活動していきまして、甲府でも教育を小さいながらやっております。最近では、産婦人科の先生にお声をかけて始めています。食育は、非常に関心のある家庭と無関心の家庭で差が激しいと感じています。幼児の事件もある中で、全く関心のない、食べることに関心のない家庭にこそ、食の教育を広めたいなと思うのですが、それがなかなか

か伝わらないのが現状でいつも悩んでいます。食育全国大会が4年くらい前に山梨県で開催されましたが、今年は富山県で開催されました。私も毎年参加させていただいておりますが、富山県や富山の各市がブースを出されていて、非常に前向きな取り組みをされていることに驚きました。フレイルやSDGsとかの取り組みもありますけれども、今回特に目立ったのは、エシカル消費、フードドライブでした。こういうこともこれから頑張っていかなければいけないことなのかなと思います。

議 長:委員の皆様から貴重なご意見ありがとうございます。ほかにはよろしいでしょうか。  
委 員:本当に食に関心のない保護者がおります。お家では食べないが、保育所では何でも食べるんだよという子どもたちに育ってきています。調理の仕方とか味付けとかにもよるものと思うのですが、食事をする環境とか関わりとかも大切になってくるのではないかと、お話をお聞きする中で思いました。食べることを無理強いすることは決してしないのですが、収穫体験やパネルシアター、また、給食の献立に子どもたちが興味を持てるようなネーミングをつけたりとかしながら、今日の給食は何かなと心待ちにできること、また、バランスの取れた食事を心がけています。

議 長:ありがとうございました。それぞれの立場で、日々取り組んでいただいているからこそ地域全体の取り組みに繋がっていくのかなとお話をうかがって思いました。それでは全体を通してよろしいでしょうか。

委 員:皆様の取り組みというのは本当にそのとおりだと思います。海外等のもてなしは、基本食事です。おいしく食べられることは、相手と親しくなれるときのとても大切ですので、好き嫌いをしないことが本当に大切だと思っています。一方で、成長の段階で食べられる、食べられないという時期はあると思うので、子どもたちの発達に応じて、トラウマにならないように取り組んでいくことは大切だと思いますし、農業体験や調理、環境が大切だと皆様の取り組みをおうかがいして思いました。そのような意味で、基本的な考え方を共有する食育計画のようなものが大切かなと思いました。

委 員:コロナ禍の3年間、3歳以上の幼児は黙食で、パーテーションを前横に立てて給食を食べていました。黙食の間も子どもたちの好きなCDを流したり、それなりに子どもたちは自分たちで楽しみを見つけて、食材が何種類入っているとか数えながら食べたり、子どもたちなりの工夫があったりしました。4月から、コロナ禍前の状況にもどり、雰囲気が大きく変わりました。やはり顔を見合わせて食べることがどんなに大事かということを感じました。家族以外の方と食事、会食をすることがすごく大事なことと痛感しています。食育白書にもあったように、コミュニケーションの育ちという点では、食育がとても大事だと思います。

委 員:我々は、幼稚園や保育園、学校という場で、遊びながら取り組みを進めています。例えば、園児への取り組みでは、白菜とレタスとキャベツの違いを、遊びながら表現させることを、1年間繰り返したことにより、子どもたちが野菜を食べられるようになりました。繰り返して食べるということが好きにつながります。このような味覚教育の取り組みをご理解いただければと思います。

議 長:ありがとうございます。議題は以上となりますが、委員の皆様からほかに何かございますか。

委 員:第3次の食育推進計画の「ふうりん か ざん」は、すごくよい命名ですが、これは継承していくのですか。

事務局:ご質問ありがとうございます。食べるだけでなく、生産から消費までを盛り込んできたこれまでの計画ですので、そこをいかしながらとっておりますが、委員の皆様方からの意見をいただき、継承していくのか、また、それを更によりよいものにしていくのかというところを検討させていただきたいと考えております。

議 長:ほかに委員の皆様からありますでしょうか。

委 員:楽しく遊びながら覚えることが非常にいいことだと思います。様々な立場で多くのアイデアがあると思うので、情報共有できる機会があるとよいのではと思いました。そうすることで、取り組みが広がると思います。病院勤務の時に、思春期病棟の拒食や過食の子どもたちに、独自のゲームを作り、ストレスのない栄養教室を毎月行っていました。いろいろな方法で、多くの選択肢があることが素晴らしいことだと思いますので、そんな機会がもし作れましたらお願いしたいと思います。

議 長:ありがとうございました。ほかの委員の皆様からよろしいですか。そのほか、事務局からございますか。

健康支援室長:

本日は、いろいろとご意見をいただきまして本当にありがとうございました。アンケート調査は、指摘がありました箇所を反映した上で実施いたします。また、好き嫌いや、無

関心への取組みなど、いろいろなキーワードがありました。次回は、アンケートの調査結果を踏まえて、次期計画の骨子までお示しできればと思っておりますので、次の6年では、どのように市民の皆様に食育を発信していくかご意見をいただければと思っております。本当に今日は貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。引き続きよろしく申し上げます。

事務局：今日頂きましたアンケートに関しましては、修正をさせていただき、本来でしたら皆様にご確認いただきたいところではありますが、時間の都合上、議長に確認をいただきまして発送の方の準備に入っていきたいと思っております。その点についてご了承いただけたらと思っております。

議長：よろしいでしょうか。それでは、以上で議事を終了させていただきます。ありがとうございました。